

世界と国内のつながり

こうした気候変動への対応として、2015年のCOP21（気候変動枠組条約締結国会議）で採択された「パリ協定」では、平均気温の上昇幅を「産業革命前の平均気温の1.5℃に抑える」ことが国際的な努力目標として共有されました。さらに、2021年に開催されたCOP26ではパリ協定のルールブックが完成し、世界が共通の認識をもって排出削減目標を掲げることとなりました。また、本年4月に札幌市で開催された「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」では、目標達成に向けた行動が再確認されています。

わが国では、2020年10月に「2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにするゼロカーボン」を目指すことが宣言され、北海道においても、再生可能エネルギーと森林吸収源など北海道の強みを最大限活用し、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進め、2050年までに環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」が表明されています。

ゼロカーボンシティこしみず

町では、町の事務・事業に対する二酸化炭素の排出削減計画を定めた「地球温暖化対策実行計画・事務事業編」を策定し、公共施設等に温泉熱を活用するなど二酸化炭素の排出抑制に取り組んできました。また、環境保護団体との連携による地域に密着した自然環境の保全と回復活動、耕畜連携による循環型農業の実践など、豊かな自然と共生するまちづくりを進めてきました。

この取り組みをさらに加速化させるため、2023年2月に「こしみずゼロカーボンシティ戦略」を策定し、2030年度までに二酸化炭素を46%以上削減、2050年度までにカーボンニュートラルとする中長期目標と達成するためのロードマップを定めました。また、3月7日から開催された町議会定例会で、戦略に基づく「ゼロカーボンシティ」をめざすことを宣言しました。

脱炭素社会の実現へ

町では今年度、ゼロカーボンシティへの足掛かりとして、街路灯のLED化や住宅取得に合わせた太陽光発電設備等の導入支援による省エネ対策を実施します。また、町の特性を活かした具体的な取り組みを検討し、町民・事業者を含めた町全体の排出削減計画となる「地球温暖化実行計画・区域施策編」を策定します。

2050年にカーボンニュートラルが実現されるよう、町民・事業者の皆さまからご協力をいただき、さまざまな主体と連携しながら対策に取り組めます。

こしみずゼロカーボンシティ戦略は町ホームページに掲載しています。



<https://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/hotnews/detail/00009350.html>

ゼロカーボンシティこしみず

～ 自然の恵み みんなでつなげる 豊かな未来 ～

わが国では、2020年10月に2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」をめざすことが宣言され、北海道においても、再生可能エネルギーと森林吸収源など北海道の強みを最大限活用し、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進め、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」が表明されています。

このような中、小清水町では地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定し、公共施設等において温泉熱を活用するなど二酸化炭素排出抑制に取り組むとともに、環境保護団体との連携による地域に密着した自然環境の保全と回復活動、耕畜連携による循環型農業の実践など、豊かな自然と共生するまちづくりを進めてまいりました。

この取り組みをさらに加速化するため「こしみずゼロカーボンシティ戦略」を2023年2月に策定し、町民・事業者の皆さまのご協力をいただき、さまざまな主体と連携しながら、2050年までにカーボンニュートラルが実現されるよう、次のとおり宣言します。

宣言

小清水の豊かな自然がもたらす恩恵を確実に未来に引き継ぐためにも、今、私たちは行動しなければなりません。気象の変化や自然環境に影響を及ぼす温室効果ガスの排出量を可能な限り抑制し、持続可能な地域社会の実現に向けて、小清水町は「ゼロカーボンシティ」をめざすことをここに宣言いたします。

令和5年（2023年）3月7日

小清水町長 久保 弘志